

友の会だより

令和6年
9月
No.54

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山 52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail : info@akihaku.jp

令和6年度友の会役員からの寄稿／活動報告

令和6年度 秋田県立博物館友の会総会

令和6年4月27日(土)

役員会 10時30分～12時 (館職員含め8名)

総会 13時～14時 (館職員含め8名)

研修(企画展解説会) 14時10分～15時

令和元年度以来、実に5年ぶりとなる友の会役員会・総会が4月に館内で開催されました。詳細は、前回(6月末に)送付しました会議資料をご覧ください。

特に重要な協議内容は次の通りです。

①研修旅行の再開

6月に県内研修(大湯・伊勢堂岱:実施済み)、9月に県外研修(東京方面)を実施することを決定。

②「アイリスの会」との連携強化

ともに博物館を支える活動に取り組む組織として、相互の意見交換や交流を進めていく方針を確認。

その他にも、今後の友の会のあり方や活動内容などについて、非常に活発な議論が交わされました。

そして最後には、懸案となっていた役員改選が実施され、柿崎仁志新会長を中心とする新役員体制の発足が承認されました。それに伴い、ご退任となった高橋祥祐前会長は、会則の規定通り名誉会員となることも確定しました。(事務局)

新会長あいさつ

会長 柿崎仁志

令和6年度の総会において、前任の高橋祥祐会長から引き継ぎ、新しく会長に就任しました柿崎仁志と申します。

秋田県立博物館は、県立の総合博物館として来年度創立50周年を迎え、県内博物館の中心施設として益々その重要性が増している施設であります。友の会はその友好団体として発足し、図録の出版販売委託を手がけるなど、博物館の活動を陰に陽に支えて



まいりました。同時に会員による県内外の研修旅行を行うなど、生涯学習の場としても活動してきています。その多くの活動は高橋前会長を中心に進められて参りましたが、コロナ禍の影響や主立った役員の高齢化などで、ここ数年は若干活動が停滞していたように思います。今年度の総会におきまして役員体制が一新され、各ボランティアグループからも役員に参加していただきました。これを機会にコロナ禍前以上に活発な活動をしていきたいと思っています。あの国立科学博物館が、予算不足から運営費用をクラウドファンディングを通じて集めるなど、博物館を取り巻く様々な状況は厳しいものがあります。そうした中でも友の会は、秋田県立博物館の活動を支えるべく協力し合って活動して参りたいと思います。

どうか、今後ともよろしく願いいたします。

新役員自己紹介

副会長兼幹事長 岩間錬治

友の会の会員歴は長いのですが、これまでは単なる名簿会員でした。高齢化とコロナ禍により会が休眠状態で役員のなり手がなく、募集しているとの案内をいただき、手を挙げました。自然科学も人文科学も専門的な知識・経験はありませんが、少しでも会の活動が活性化するよう努力したいと考えています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

幹事 佐藤明正

私が友の会に入会したのは10年ほど前になります。旅行の仕事(東照ジャパン)で各地を回る時も、博物館には興味がありましたので入会しました。当時、通常の旅行コースでは行くことはないような真鶴町立遠藤貝類博物館を見学し、とても楽しかった思い出があります。その後、県内研修でも、ぐい飲みを焼いたり、石井露月の研究者のお話が聞けたりした楽しい経験がありました。新たにスタートする友の会の企画に少しでも協力できればと思っています。

幹事 佐川義則

秋田県立博物館友の会考古ボランティアの佐川義則と申します。県博主催の石器作り教室への参加を端緒に、

友の会考古ボランティアに所属して8年余りになります。“考古”のキーワードから離れがたく、土器作り教室等の館主催各教室の補助作業などをしております。コロナ禍の期間活動休止の時期もありましたが、今回、友の会役員改選に伴い新役員幹事を拝命しました。微力ではありますが友の会の発展に貢献できれば幸いです。

会 計 渡部 均

昨年度まで博物館の展示・資料班で勤務し、この3月に退職しました。現在は地質ボランティアとして、週1回ほど博物館の収蔵庫内で資料の整理などを行っています。博物館のサポーターになればと思って以前から友の会に入っておりましたが、今年度からは友の会会計として、会の活動のお手伝いができればと考えています。よろしくお願いいたします。

監 事(会計監査担当) 幡宮明貞

友の会の組織の一つ、秋田古文書同好会の一員です。同好会では、月一回、仲間と博物館所蔵の古文書を解読しております。今年度は友の会の再出発になりますので、役員の皆様とともに会を盛り上げていきたいと存じます。



令和6年度 県内研修旅行

「大湯環状列石と 伊勢堂岱遺跡を学ぶ」

令和6年6月10日(月)～11日(火)

参加者 7名(同行の館職員を除く)

友の会の研修旅行を5年ぶりに再開した。コロナ禍が中断の最も大きな理由だが、会員の高齢化や友の会の活動の停滞もあり、元気の無さを振り払おうと企画した。そのため、従前のやり方を変え、特定の会員の負担を避け、公共交通機関を利用した。また、日帰り旅行はスケジュールが過密になりがちなので、1泊2日の旅行とした。

参加者は7名で、各日に博物館職員が同行してくれた。6月10日、秋田駅発つがる41号に乗車、次の乗換駅大館までたっぷり時間があるので、自己紹介、旅行参加の動機、日常生活の状況など、和気あいあいに、車窓の景色に見とれながら、おしゃべりを続けた。次に花輪線、秋北バスと乗り継ぎ、バス停から徒歩で大湯ストーンサークル館に向かったが、里山のような環境に徐々に取り込まれていき、タイムスリップしたような感もあった。館では、大湯SCの会の関美津江さんから丁寧な説明を受けた。ストーンサークル、施設の展示

品等についてはHPに詳しく掲載されているが、縄文の森など現地での雰囲気は是非味わってみたい。宿は大湯温泉ホテル鹿角で、ゆったりと肌に優しい温泉に浸かり、懇親会では当日の研修内容はもちろん、それぞれが現在取り組んでいること、友の会の今後のことなど様々な話で盛り上がった。



大湯ストーンサークル館前で記念撮影

二日目は、伊勢堂岱遺跡で、学芸員の榎本剛治さんから分かりやすい説明を受けることができた。遺跡や施設についてはやはりHPに委ねるが、ここでも遺跡のスケールの大きさとランドスケープ、残された橋脚や半地下方式の高速道路などから受ける強烈な印象は、現地でなければ感じるができないと思う。

両遺跡とも初めての訪問ではなかったが、交通機関を利用している段階からアプローチが始まっているような高揚感と、ガイドによる説明を受けたことにより、これまでよりも格段に意義深いものとなった。



伊勢堂岱縄文館で記念撮影

(岩間錬治)

事務局から

今年度は県内外の研修旅行だけでなく、友の会会員対象の展示解説会なども実施予定です。会員の皆様にご参加いただければ幸いです。

また今年度は久しぶりに、友の会だよりも2回発行します。3月発行予定のNo.55も、どうぞお楽しみに！